

課題

- 各公共交通事業者の経営資源は限られており、地元住民の需要を優先的に充当せざるを得ない状況。そのため、レンタカーを使わない来訪者の周遊観光需要を個社で応えることは困難となっている。

プロジェクト概要

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]

- 網走バス、斜里バス、こしタク*、JR釧網本線の4つの交通事業者が連携し、交通結節点を活かし公共交通ネットワークの充実を図る。*:R6年度、小清水町が実証運行したライドシェア
- デジタルツールを活用し1次交通の車内から2次交通(地域公共交通、デマンド交通)の予約・乗車券の購入を可能にする。
- 女満別空港までのデマンド交通の延伸と高付加価値化サービスの提供

[モビリティ・データの取得と活用]

- ODデータやアクセスログ等から旅マエプロモーションの効率化や人気周遊ルートの分析。
- ライドシェアからの乗継実績等を基に、自治体との地域公共交通の再構築検討に活用。

[地域交通政策等との連携]

- 網走バスのオンデマンドバスや小清水線、市内線、斜里バス知床線、JR釧網本線が連携した電子チケットの造成
- 上記に追加で、女満別空港までのエアポートライナーもセットにした電子チケットも設定予定・こしタクと網走バスのデマンド交通の乗り継ぎプランを新設。
- 各市町の飲食店・観光施設の入場券等をセットにした電子チケットを造成し、目的地との連携を図ると同時に、購入者限定のクーポン等で地域内の観光消費を促す。
- 当計画は、網走市、小清水町、斜里町が策定している各地域公共交通計画と方向性は合致しており、3自治体と連携して進めていく。

効果

- 各交通事業者のリソース不足を補完しながら、広域でのモビリティサービスが提供できる。
- 公共交通事業者が連携して、オホーツク、知床エリアまでレンタカーに頼らない周遊観光が可能になる。

事業の新規性

※継続事業

- R6年度は網走、小清水エリアで網走バスとJRだけでスタート。今回は斜里バス、こしタクも参画。「鉄道、乗合バス、デマンドバス、ライドシェア」と多様な交通モードが名実ともに繋がった事例となる。
- 女満別空港から観光地へ直接アクセスする交通網造成と荷物の配送サービスを検討し、利便性向上を図る。
- 道の駅はなやか小清水(JR浜小清水駅併設)の特長を活かし、交通結節点としてライドシェア&デマンドバス(JR)とのスムーズな乗継を実現させるフィジカル連携にも取り組む。

事業エリア/交通事業

- 事業エリア:網走市、斜里町、小清水町(女満別空港～網走～小清水～知床斜里～ウトロ)
- バス:網走バス、斜里バス(エアポートライナー及び一部の路線バス運行区間)
 - デマンド交通:網走バス(女満別空港～網走～道の駅はなやか小清水)/こしタク(道の駅はなやか小清水～小清水町内)
 - 鉄道:JR釧網本線(網走駅～知床斜里駅)

MaaSアプリ等

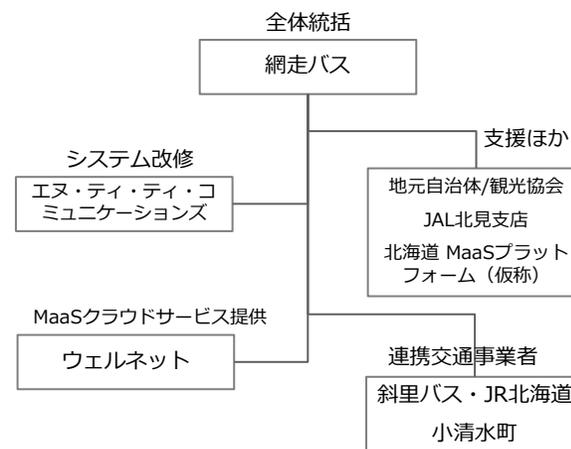
- NTTドコモのAI運行バス
- ウェルネットのMaaSクラウドサービス、アルタイルトリプルスターで電子チケット作成

データの活用等

- データの取得方法:専用サイト(LP)へGoogleAnalytics等組み込む。/電子チケットから利用者属性を把握し、利用時間、位置情報を取得可能とすることでODデータを生成。
- データの活用方法: 日時、区間、人員等の利用データから網走バスのデマンド交通の学習や最適な車両台数など検証。/利用者が少ないが同一区間を複数交通事業者が運行したり、繁閑の差が激しい区間における最適な運行計画など。

座組

スケジュール



3～4月 申請～交付決定

5～7月 準備

7月下旬～9月 実証運行

10～11月 効果検証

12月下旬～ 事業報告、精算

※時期は変更する場合あり。こしタクの運行時期と調整するため